

令和4年度(2022年度)学校教育目標

学ぶ喜び、つながる喜び、働く喜びを実感できるチーム伊倉の仲間づくり



玉名市立伊倉小学校だより 第1号

## 進級、新入学おめでとうございます

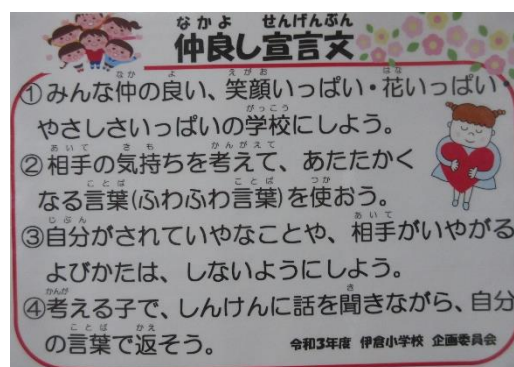
### ———始業式(8日)で話したこと

就任式後の始業式で伊倉小学校の2年生から6年生の児童の皆さんに対して、“どんな学校、学級、児童をめざしますか?”と問いました。伊倉小学校で学んだことが社会に出てからも生かせるようになってほしい。そのための指導・支援をしていくことが学校の果たすべき役割であり、教育活動の意義であると私たち伊倉小学校の教職員は自覚しています。

そこで、より広い視野から、より深く“どんな学校、学級、児童をめざすのか?”を考えるために参考となる本を紹介し、読み聞かせをしました。それは『教室はまちがうところだ』という絵本です。これは本校の図書室にもあります。伊倉小の児童の皆さんには是非一度手に取って読んでみてほしい本です。

### ———入学式(11日)で話したこと

22人の新1年生に対して3つのお願いをしました。そのもととなるのが右の「仲良し宣言文」です。これは昨年度の企画委員会の児童が中心となって作成したものです。この宣言文には、伊倉小をみんなが仲の良い、笑顔いっぱい、花いっぱい、やさしさいっぱいの学校にしたいという願いが込められています。この願いに基づき、2年生から6年生の児童が良きお手本を示してくれると期待しています。



## 世界自閉症啓発デー

～毎年4月2日は国連の定めた世界自閉症啓発デー、毎年4/2～4/8は発達障害啓発週間～

今回の世界自閉症啓発デー(令和4年4月2日)に寄せられた厚生労働大臣のメッセージの一部を以下に紹介します。

発達障害は、親のしつけや教育の問題ではなく、脳機能の障害によるものです。その特性は一人ひとり様々であり、自分の得意なことを活かして活躍されている方も数多くおられます。

一方で、周囲の理解が十分でないことによって、その行動や態度が「自分勝手な人」、「変わった人」などと誤解され、生きづらさを感じながら生活している方もおられます。発達障害に対する正しい理解が社会に広まれば、周囲の方の接し方も変わり、そうした生きづらさも軽減されると考えています。

令和4年4月2日

厚生労働大臣 後藤 茂之

一人でも多くの方々の正しい理解が広がり、誰もが幸せを実感できる共生の社会実現に向け、本校でも人権教育や特別支援教育に関する教育・啓発活動を推進していきます。

この度の異動で天水中学校から伊倉小学校勤務となりました。保護者や地域の皆様のご協力のもと、教職員一丸となって精一杯尽力していく覚悟です。どうぞよろしくお願ひします。

玉名市立伊倉小学校 校長 福田 賢一

◇本校ホームページも随時更新しています。[伊倉小学校](#)で検索